

「行動する保守」の論理（2）

——外国人参政権に反対するβ氏の場合——

樋口直人

(徳島大学総合科学部)

Logics of the ‘Aggressive Conservative’ Movement (2)

The Case of Mr. β

HIGUCHI Naoto

University of Tokushima

1. 問題の所在——外国人参政権反対の広がり

筆者が排外主義運動に関心を持ったきっかけの1つは、外国人参政権をめぐる一連の動きである。政治的には、外国人参政権反対の動きは初めてではなく、2000年に公明党を主とする連立与党案が提出された際に、反対派は継続審議→廃案に追い込んでいる。だが、2009年の民主党政権下での動きはそれとは異なり、議会外での反対運動が盛り上がった。外国人参政権の「危険性」を訴える街頭演説が各地で展開され、その論拠を提供するような書籍も刊行された（別冊宝島 2010; 西村 2010; 山野 2010）。筆者が主たる調査対象とする在日特権を許さない市民の会の会長である桜井誠氏も、この問題について頁を割いて言及しており、最重要課題の1つとして位置づけられている（桜井 2006, 2010）。

インターネット上で出回る情報だけでなく、活字になったこれらの書籍でさえ、反対論の多くは事実誤認と「妄想」としか呼びようがないシミュレーションにもとづいている。しかし、こうした言説が一定の共鳴を得て、かつての政権党までその妄想に飲み込まれているのは事実である（樋口 2011b）。他の「移民受入国」でも、「ブルカ禁止」のように政策としての「合理性」がまったくないものが、イスラームに対する妄想を背景として大きな政治的課題となることはある。だが、外国人参政権がこれほど大きな政

治問題と化すことは他の国ではなかった¹。

筆者は、非現実的な計算にもとづく外国人参政権反対論が日本で跋扈する背景として、東アジアの地政学的状況があると考えている（樋口 2011a）。これについては別稿で詳述するが、「東アジア」は「外国人参政権」にいかにして「翻訳」されるのか。すなわち、どのような人がどうした認識にもとづき、外国人参政権反対運動を展開しているのか。本稿を含む一連のデータ開示に際しては、外国人参政権に関する意見を述べてもらっている。本稿でも、それに関わるβ氏（60代男性）に対して2011年4月18日に聴き取りを行っており、状況の一端を伝えることを目的としている。

2. 外国人参政権という問題

《政治的社会化》

元々、学生時代からいわゆる保守系の月刊誌、『文芸春秋』とか『諸君!』とか愛読していたんですよ。で、『諸君!』なんてのはもうなくなっちゃったけど、昭和44年にできたんだけど、大学入って創刊号からずっと読んでいます。一冊

¹ 法制化に時間がかかった代表例はベルギーだが、これはフランデルとワロニーという二大地域の対立があり、外国人参政権は両者のバランスを崩す可能性があるため進まなかったという事情がある（Earnest 2008）。

残らず。それで『正論』なんてできて——まあ『正論』はあまり読んでなかったんだけどね——あれは誤植が多かった、すごく。今は考えられないけど。『諸君！』のほうが圧倒的にレベルが高かった。『諸君！』『文芸春秋』を読んでいて、ずっと本多勝一とかイザヤ・ベンダサン論争とか、南京大虐殺のこととかね、まあいろいろ読んでいて、ああいう雑誌に出てくる類のことはすべて興味があったんですよ。すべてに関して。すべて要するに、私の立場は戦後体制に反対する立場だから。

卒業してからずっと仕事どさまわりで、〇〇行ったり××行ったりね、全然活動できなかった。(活動する以前の保守派との付き合いは)ないことはないんですけどね。でも一緒に活動するわけにはいかないからね、遠くにいるからね。だから時々手紙のやり取りとか、その程度かな。ほとんど付き合いなかったね。何にもしませんでしたよ、地方では。田舎にいると何にもできないんだよ。僕なんかね、□□と△△にいたから、ウルトラ田舎なんだよね、何にもないんだ。

(地方で活動している人たちは) オールドライトね。僕もオールドライトなんだけどさ。でもね、若いときはニューライトって言われてた。あつという間にオールドライトになっちゃう。

(都市部にいると活動の条件が) 全然違いますよね。それともう1つ、仕事がやっぱりね。この歳、特に10年前でしょう。サラリーマンってね、50(代)になるとね、だいたい激職から外れるんですよ。そういうものなんです。ちょうどタイミングが良かったんです。 (都市部に) 来た、激職からも外された、土曜日曜は休める、となってくるとやっぱり活動を始めますよね。活動ってほどのことじゃないんだけど。

《外国人参政権に着目した経緯》

(1995年の最高裁判決について) 全然知らなかった。あの判決は平成7年の2月なんです、あれ。僕はその1ヶ月前に、阪神大震災あったじゃない、あのとき私は神戸にいた。震災でそれどころじゃないから、あの2月28日の判決かな、まだ震災後1ヶ月だからそんなに新聞読むとかそういう状態じゃなかったからね。全然知らなかった。

(1998年の連立与党合意についても) 全然知

らなかった。覚えてない。だから『正論』や『諸君！』にね、載ってたと思うけど、載っていて腹を立てていたかもしれないけど、記憶にないんだよね。よくわからない。ほとんど諸君なんか細かく読んでいたから、多分読んでないことってないですよ。でも他のイシューと同じような感じで、これも頭くる、これも頭くる、とんでもない。全部頭くるで終わっちゃうかもしれないね。

平成13年の4月、ちょうど10年前ですけど都市部に来た。今度は本読んだりじゃなくていろいろな講演会に行くわけだ。ある保守系の講演会に行ったら、具体的には平成の大演説会で、そこで米田建三さんっていう前の自民党の代議士が外国人参政権について熱っぽく語っていた。それを聞いて僕はびっくりしたわけだ。こんなあったんだ、とんでもねえと。何年くらいかな、平成15、6年かな。それで興味を持った。それはそれで別に行動を起こさなかったんですけど。

たまたまあるきっかけで若い女性と知り合っ、て、活動でね。ある台湾関係の講演で、ある若い女性が質問したわけだよ。その質問に講師が答えなかったんで、俺が教えてやるよと、「あんたメルアド教えてくれたらメールで教えてあげるから」って。メールのやりとりするうちに、向こうが、「今度こういう外国人参政権のあれあるから一緒に行きませんか」と言うから行ったら、そういう世界だったんですね。「オフ会ってのがあるよ、外国人参政権」って。オフ会って何かわからなかったけど、要するに若いネット族の集会に行ってみないと言われて行ってみたわけ。それで彼ら数人でね、若い人が細々と活動していて、私がアドバイスを——年配だからね——アドバイスをしたりして、会に参加したってことなんです。それがきっかけ。

(米田建三の話聞いて初めて関心をもったのか) そう。プラス実際に「オフ会」ってのに行ってみて話を聞いてみるうちに、自分もオフ会の中でいい顔をしようと思えば勉強するじゃないですか。そうすると、すればするほどこれはやばいな、とんでもないなとなってきたわけです。

いわゆる保守の人はオールドライトばかりで、そこ(参政権)だけヤングライトがいたわ

けですよ。それでこれは若い人を育成できるかな、みたいなね。そういうのもあったんですよ。珍しかったわけ。要するにネットで知り合っ、ネットだけで話し合っ、ハンドルネームでいろいろな知識を持っていて——薄っぺらいんだけどね——ネットの知識を持っているわけ。（ネットについて）教わっ、当時チャットで話したりとか。ミクシィなんてなかったんだよね。彼らに教わり教わり、その世界に入っったんです。そういう若い人たちが関心を持ってきて、これはいいことだなと思っ、ちょっとそこに力入れた。

（参政権が若い人の心をとらえるわけは）僕の勝手な推測ですけど、やっぱりワールドカップ。ワールドカップって年配者興味ないと思うんですけど、若い人は熱狂するじゃない。だから最初の頃のグループにいた人たちは、これに参加したでしょ、みんなサッカーキチガイばかりだったんですよ。びっくりしたんですよ。（自分は）全然サッカー知らないのに。みんなサッカーで、韓国はひどすぎるわ、と。そこから入ってきている。だからリベラルな人や左翼の人は頭きていると思うけど——どうしてこんなに若い人がネオコンサバになってきたんだと。理由は2個あるとして、拉致とサッカーだと思っます。わたしはワールドカップ見なかった、何にも興味なかったんだけど、すごい大きなパワーっていうかね。そういう感じで若い人がこっち側に入ってきたのかなと思っますけどね。だから敵失ですよ。敵のオウンゴール。

お互いに勉強してっ、向こうに教わることもあれば、僕も教えることもあるし、いろいろですよ。そんなに私のほうが知識が優れているということではなくて、外国人参政権については両方とも同じくらいに。みんな勉強してっ。だから、そのうち僕が年配になってから人に話をするようになると、知識の量が違っってくるからね。そういう面で若干あるとは思っけど、そんなものです。だから一般的にネット族って本読まないから、知識が浅いというのはありますね。広く浅く知っているんだけど、ちょっと突っ込まれるとわかんなくなっちゃうんですよ。

（2000年代初頭の当時は）まだその問題がね、あんまり大きい問題として取り上げられてな

ったんですよ。他のね、たとえば〇〇問題²とか、靖国神社の国立追悼施設とか、そういう問題がすごい大きかったでしょ。外国人参政権とかこの次だったわけだ。ところが、民主党政権ができちゃっ、その前に参議院で民主党が圧勝した、そのあたりからこれはやばいぞ、と。みんなの耳目がこっちに向ってきて、保守系の陣営がね。元々うちらが前からやっっていたんで、逃げられなくなっっちゃった。しょうがねえからやろうか、みたいな形で運動をやってきたというのがあなたのご質問の一番ですね。だから大した理由じゃないんです。たまたま行き当たっ、これはやばい、と。

《コリアに対する関心》

それと自分のなんていうかね、もともとこれ
在日問題でしょ、在日問題って興味あったんですよ、昔から。コリア関係はね。私どちらかという
とコリア関係が好きだから。いわゆる業界内では韓国好きで通っっている。だからそういう面
でちょっと深入りして。

樋口さんは若いからあれだけど、僕なんか子どもの頃けっこうね、年寄りがね、例えば「お前、そんなことすると朝鮮人みたいになる」とかね。「嘘つきは朝鮮人になるぞ」とか、そういう差別発言ってあるじゃないですか。そういうのを聞いてっ、興味を持っただけです。そんな悪い奴らなんだと。で、たまたま大学4年の時に行っったんだ、1回韓国に。そしたらまるで180度反対で、大歓迎されちゃっ、それでいろいろ興味持ったと。それで韓国語少し勉強したりしてね。あの頃ハングル読めるっていったら、超珍しかった。韓国語なんて今までい
なかったね。韓国の映画見たりとか、歌謡曲聴くとかいうのは誰もいなかった。

韓国人の友達もいるし。時々韓国に行くし。ただ私は、彼らとは根本的に相容れないところがあるんだけどね。たとえば日帝36年の支配が牢獄だったと、「そりゃ違っだろう、天国だろう」と、そういう違っがね。でもそういつたところを別にすれば——別にできないんだけど——ただ向こうでも日帝36年はよかつたという人が

² トランスクリプトの作成時にどうしても聞き取れなかったため、〇〇としてある。

いっぱいいる。懐かしいという人がたくさんいるわけであって。在日の友達はいない。親戚はいるけど。でもあまりそういう話はしないね。

僕の知っている韓国人なんてのは、在日がなんで日本の選挙権求めるんだと。これはね、僕の友人だけでなく韓国有名なチェ・カプテって日本で言うと文芸春秋みたいな『月刊朝鮮』の編集長やっている人とか、いろいろな人が言っているんですよ。在日韓国人は韓国人なのになんで選挙権求めるんだ、お前ら日本に忠誠誓っているのか、違うだろう本国だろう、へんじゃないか。そう思っている人はいっぱいいる。基本的に半島のコリアンにとって列島のコリアンというのは、理解し難いへんなやつらなんです。嫌いなんです。だから在日も韓国人も韓国にいる韓国人も、一枚岩じゃないってことだよ。いろいろな人がいるってこと。(コリアンに対する関心が外国人参政権に対する関心につながるのか)いやあ、つながるかもしれないなあ。つながりますよ、やっぱり。そうですね。

3. 外国人参政権反対の活動

《組織をめぐる世代間対立》

組織についてはいろいろありまして、若い人たちがサイトを作っているわけですよ。チラシとか全部作っているわけ。ところがね、その人たちと私とやっぱり年代が全然違うし、うまくいかないんだよ。路線闘争というよりも感情的な問題もあるのかな。うまくいかないんだよ。それでこのべつ幕なしでトラブルがあって、結局お互いにじゃあもうこれはあれだっというんで、提案して分かれようと。会を分けて、全国と〇〇と、××にもある。要するに親会社と子会社、情報を親会社が持ってきて子会社に提供する、子会社はそれを使って活動する。活動に使うのはなんだっという、フランチャイズみたいなものだ。そういう形になっている。だから干渉しない、お互いに協力するときは協力する、そういう形になっているんですよ。だから私はサイトについては一読者に過ぎないわけ。

(会としての活動は) 集会と署名活動。それくらいかな、会としてやっているのは。あとはばらばらですよ。僕、(分派してから)自分の勝手な独断でやってきましたから。もうまったく別々ですよ。ただ情報がほしいとサイト見たり、

向こうの人に話を聞いたり。

この前、珍しく一緒にやったんですよ。住民投票と自治基本条例ね。あれも私やりたくなかったんですよ。無理やりやらされた。私はいやだった。住民投票も自治基本条例も困るけど、基本としてはあまり広げたくないんですよ。わかるでしょ。結局アブハチ取らずになっちゃうからね。私は外国人参政権だけに行きたかった。せいぜい人権擁護法案と外国人参政権くらい。広げたくなかったが結局広げられちゃった。それはお付き合いだから。でもね、そういうのやりたかったら自分達だけでやってくれ、時間もないし、ちょうど定年間際で忙しいんだよ。

僕が〇〇で代表と名乗っているけど私1人です。私は会員増やすつもりないの。入りたいという人はいるけど入れないの。面倒くさいから。1人で活動するのが一番いい。△△にもある。これも1人でやっている。××もある。これも2、3人でやっている。本社と支店、銀行でいうと本店と支店、またはセブンイレブンの本社とフランチャイズ店、セブンイレブンの名前を使って物売っているけれども、営業勝手にやれと。そういう形になっている。これは非常にすっきりしてやりやすいんです。

組織を作ること自体がね、面倒くさいんですよ。そちらに手間取られちゃう。僕はつい最近までサラリーマンやっていたから、仕事やりながらそんなことやってられないんで、組織を作りたくないってことです。もう3人寄ればトラブルです、やっぱりね。

(運動の目標は) まったく同じです。細かいことですよ。つまらないことで。やっぱり、みんな自分のやりたいようにやりたいわけですよ。僕みたいに年取ってきて、社会人として背中にコケが生えたような男なんだけど、若い人からみれば鬱陶しいじゃないですか。こっちはこっちで、若い人がいうこと聞かないで嫌じゃないですか。会社に行けば、若い人みんないうこと聞くのに、何でこいつらいうこと聞かないんだ。それで結局別れた。路線上の問題はないんですよ。結局ね、ああいう団体と付き合うな、こういう団体と付き合うなってうるさいんだ、結構。私は誰とでも付き合うって、とにかく外国人参政権に反対する人を1人でも増やせばいいとい

う考えだったから、そういうところでの路線の違いはあった。

（他団体に行く時には）こっちの人（同じ団体だった若い人）たちは、行っちゃだめというんですよ。あいつらと付き合うなって。そんなこといってもね、街頭でもどこでも、僕はいつでもどこでも誰とでも外国人参政権を訴えるべきですよという方針で、彼らはいつはダメいつはダメとなっているでしょ。だからいいからもう別個で切ろうと、それが一番の問題だよ。

《具体的な政治的脅威としての外国人参政権》

自分でいうのもなんだけど、私が具体化するように持っていった面もあるんですよ。選挙権が危ないよって、たとえば対馬市とかね、島根県とか沖縄とか。そういうところの選挙管理委員会いろいろ話をして、データをとって。それからそういうところの住民のなかの在日の割合とか、外国人の割合とか——なかなか教えてくれないんだけど——そういうのを聞き出して書いたり、いろいろなところで話し合うようにして、具体的に危ないぞ、という部分に話を持っていったというのはある。

幸か不幸か向こうからつついてくるんで、 코리아やチャイナからいろいろ突っついてきてくれるんで。しかもチャイニーズが急増してきたでしょ。そういう面で、ここ2、3年で急激に抽象的な脅威だったのが具体的な脅威になってきたと。まあチャイニーズの激増が一番大きいでしょうね。ということだと思っんですね。来日する外国人の中だと、チャイニーズが圧倒的じゃないですか。これは誰でも、「この人たちに選挙権あげるの？」ということになるじゃないですか。

で、敵も愚かなところがあって、あの民主党の小沢一郎なんて一般永住（者）も与えるなんて言い出したわけだよ。それはチャイニーズにも与えるってことだから、それでやっぱりみんな危機感を持って火がついた。漠然と外国人参政権って問題から、シナ人が選挙権持つてというきわめて具体的なものになった、イメージがね。そういった（運動やメディアの）誘導とかいろいろあって、話がホットな、具体的なイシューになってきたと思っんですね。

（選挙管理委員会に連絡をとって調べたの

は）いつだったかな、2、3年前だったかなあ。選管とか市役所村役場に電話して、おたくの村には永住者何名いるのってね。隠岐島には何名いるのか、そういうのをいろいろ調べたわけですよ。最初に調べたのは荒川区か。最初に東京の荒川区を調べて、すごい、まずい、やばいんですよ。あそこは区議会議員なんて20票くらいで順位が入れ替わっちゃう、そこに何千人っているんですよ。それは区議会議員びびりますわね。彼ら選挙権持ったら。コントロールされちゃいますよ。そういう風に具体的なイメージとして、ここが危ない、ここが危ないと。東京じゃ荒川だ新宿だ、大阪は生野区、九州はここだってね。そういう風に活動やっていってね、段々とみんなが危機感を持ってくれるということですね。

具体的に選挙得票数と在日の数、外国人の数をドッキングさせたのは僕が最初です。それで実際の危なさを、だいぶ前から私が最初に警告したんで。あの荒川区の資料っていうのは衝撃的だったんだね。簡単に3分の1くらいコントロールできる、区議会議員を。それ 코리아 だけです。これにチャイナになったら大変なことになる。

（なぜ調べたのか）説得力を増すためと、もちろん興味ありますよね、自分で言っていてどれだけ危ないのか、知りたいじゃないですか。危ないと言って、実はこんなに危なくなかったというのと、やっぱり危ないじゃないかって知りたいわけですよ、自分で。

《ネットワーク》

（学生時代からの知り合いとの付き合いは）結局ねえ、両方ですよ。さまざま。全然知らなくて『正論』や『Will』みて参加したり、昔からの仲間のやっているところに行ったりとか。40年来の仲間がやっているわけじゃないですか、いろいろな活動をね。そういうところに参加したりとか、いろいろですよ。だから一概には言えない。（行動する保守との付き合いは）僕が会を始める前から、××とか。××（との付き合い）は8年くらい前かな。僕が始めた頃に、桜井さんが在特会始めて。

××さんは、5、6年前はまったくマイナーだったんですよ。1人2人しか活動に来ない時に、頼まれて来てくれといわれて、僕も会社ヒマだ

ったから行くよって、よく3人くらいでやっていたんだよ。そのうち動画ができて、動画が流れることによって知名度が上がって、彼のところにいっぱい人が来るようになって、まあよかったんだけどね。今でも基本的には××さんからメールがきて、行くぞとっていつたり。最近あまり付き合わないんだけどさ。いろいろ用事があるってね。なるべく付き合うようにしてるんですけど。

(もっとも力を入れて活動したのは)ここ2、3年じゃないですか。そんな大したことやってるわけじゃないんだけどね。去年1年かなあ、やっぱりピークだったのね。結構忙しかったんですけどね。サラリーマンやりながら。でも結構暇な仕事だったから、平日の真昼間からやりましたよ。もう閑職になるんですよ。大企業で50(歳)過ぎると窓際になる、窓際に。(ずっとリストラされないで)たまたま僕なんかレアケース、いまだき珍しい恵まれたケースだね。最後の恵まれたケース。だからラッキーです。武道館なんか行きましたよ、集会(日本会議が実質的に主催した2010年の1万人集会)にね。ただ、日本会議はあまり本部は接近してこないね。いろいろあるんですよ、右翼の中でね。日本会議のいろいろな支部がね、××の支部とかそういうところは接近してきて、去年も日本会議のなかに呼ばれていったんだけど、そういうのはあるんですけど。なんか日本会議本体はあまり接触してこないね。だから僕の活動の場としては〇〇とかね。

最近他のこともあるけどね。沖縄の話、自治基本条例の話、人権擁護法案の話とかいろいろありますけどね。今度は母体保護法。いわゆる保守のいろいろな問題を、いろいろ頼まれてるんですよ。頼まれて自分にできる範囲のことはやろうかなってにわか勉強していくわけですよ。自分で受けて自分で行くみたいな、一番気楽でいいですよ。組織を作って自分が会長になって部下を持って、そんなのとんでもない話で。

私はね、たとえ相手が創価学会だろうと共産党だろうと、外国人参政権に反対するんだったらどこでも行くよと。あいつはいやだこいつはいやだ、あいつは統一教会だ、とこの業界多いんだ、そういうのが。私はそういうのいやだ。誰でもいい。ビジネスなんだから。気にくう気

に食わないでやっちゃいけないんだよね。その辺のビジネスマインドがない人が結構多くて、オレはあいつは幸福の科学だから共闘しないと、あいつは何とかだからといろいろいうんだけど、関係ない。ビジネスの世界は関係ないんだから、外国人参政権を打倒するという目的のためには、誰とでも何でもやるんですよ。というのが僕の闘争観。

《民主党政権と外国人参政権》

やっぱり盛り上がってきましたよね。民主党政権になったおかげで、みんな危機感あるからね。すごいアンチ民主党も盛り上がっていたんじゃないんですか。人数もそうでしょ。反対するデモンなんかどんどん増えているからね。大したもんですよ。

(参政権法案を出さなかったのは)出せなかったんですよ。結局反対がいたから、党内保守派がいたわけですよ。松原仁とか渡辺周とか。あと渡部恒三とか、そういう元自民党の保守派の人たちが反対したからですよ。だから出せなかったんじゃない? 党議拘束を外すってことは小沢一郎の体質からありえないですよ。だから結局まとまらなかったんじゃないかな。相当渡辺周さんなんか裏で動いたらしいけどね。出さなかったけど、出したら下手すれば分裂したかもしれないし。

これは個人的見解だけど、小沢一郎なんてのはしたたかな男だから、本当に民団がかわいそうだから在日がかわいそうだから選挙権あげましようなんて思っていないと思うんだけど。馬を使っている、エサを食わしちゃうとエサがなくなっちゃうじゃないですか。次の選挙で協力してくれなくなっちゃうじゃないですか。エサをどんどん・・・協力させ続ければいいわけで、にんじんを馬の前にぶら下げて馬を走らせればいいんじゃないか、そういう風に使っていると見えなくてもいいけどね。したたかな男ですよ。

(外交目的で外国人参政権を使っているのではないか)対韓国で? そうですかねえ。それはよくわからないけど。なるほどね・・・。でもね、民主党の推進派のなかには参政権を与えることによって韓国との関係がよくなるという人いるけど、とってもしつこい話であって、良くなるわけなんかないので。竹島があるからね。そ

れとやっぱり韓国の政治家から見たら、在日の選挙権なんてどうだっていいことなんですよ。向こうは在日から税金は取りたいし、徴兵は取りたいと思っているのにさ、選挙権持ってどんどん向こう側に言っちゃうと、日本のほうへいっちゃうと。日本の投票すると、韓国に背を向けてさ、ヘンじゃないですか。こっち向いてこっちに投票しろよといたいわけでしょ。だからそんなに僕は本国政府はリップサービスで言うけども、日本に来ると民団がいるからいうけれども、本気じゃないんじゃないの。と思いますけどね。

（外国人賛成権法案を）やりたがってますよ、まだ。民主党の左派も自民党左派も公明党も。でもそういう余裕がないでしょ。それどころじゃないんじゃないですか。だからいろんな 이슈がみんな流れちゃったと。とりあえず。津波（東日本大震災）で流れちゃってどっかいつちゃった。復興してきたらまた考えるんじゃないかな。あとどういう連立政権ができるかによるけどね。そこはよくわからないね。

（人権擁護法案は）やる気なのかね。ただ、ああいうのって僕もよくわからないんだけどね、選挙向けのアドバルーンっていうのはあるんですよね。どこまで本気かわからない。選挙が近くなると、まあ今度がそうだけでも、民団向けこれやるよとか、解放同盟向けこれやるよ、とか打ち上げるじゃないですか。で、選挙終わるところなるでしょう。どこまで本気かなってちょっとわからないけどね。人権擁護法案なんて成立しないでしょう。今の状況だったら。

公明党を与党（に）するために使うのはありえますけどね。公民連立したら本当にやばいからね。でも公民連立もありえるんですか？ まさかこんな選挙に弱くなっちゃったところにくつつかないでしょう。下手すりゃ、あいつ、仙谷とか興石とか極左政権になっちゃうかもしれないでしょう。それはありえる。まあ、仙谷は公明党と仲悪いのか。

《今後の活動》

この前、自治基本条例に反対する会をやって、ちょっとしたきっかけで引きずり込まれて、自治基本条例に反対する市民の会を立ち上げつつあるんですよ。結局いろいろなところから引っ

張り込まれるわけよ。人と会えば会って、仕事が増えるんでいやなんだけど。定年になったらゆっくり畑とかやりたいのに。だから外国人参政権だけじゃなくて、自治基本条例、まあもろもろやってこうかな。細々と。微力ながら、と思っているんです。

（誰と活動するか）これ見てくださいよ（とたくさんの熨斗袋を見せる）。選挙の応援ですよ。これ、昨日（手で厚さを示して）これくらいあった。配って歩いている。今日もこれから配らなきゃいけない。いつでもどこでも誰とでも一緒にやる。これが僕の方針なんですよ。だからあれは民主党だろうとか、あいつは統一教会だろうって関係ねえんだ。当選してくれればいいんだよ、って。ね。鄧小平がいていたように、白い猫でも黒い猫でもネズミをとりゃいいんだよ。私も白い猫でも黒い猫でもいいんです。外国人参政権だのへちままだのっているね、反日勢力ってね、ネズミを食ってくれればいいんだよ。関係ねえんだよ。4年前と比べたら倍以上配っている。逆に困るんだ、金がかかるから。

（8年前の統一地方選では）いなかった。どんどん増えていったんだよ。まあ4年後は出せないな、もう。収入がないわな。国会議員となると大変ですよ、金かかりますよ。市議員なんか1万円でもいいけどさ、国会議員となれば1万円とはいかないわけです。片手（5万円）包まないといけない。何十万ってかかるんですよ。選挙のたびにね。

自分の体を使ってやりたいけども、これもつまらない理由なんだけど、私、××に住んでるでしょ、〇〇まで出てくるのが大変なんだ。朝早くからさ、駅前。4年前の時は△△（近所）に住んでたわけ。近いから、朝早くから夜遅くまでお手伝いできるわけだ。走り回って運転したり、ポスター貼ったり。体でできるわけ。それができないんだよ。それから人数が増えちゃってできないわけですよ。選挙期間7日間で15人を応援しようとしたら、これありえない。しょうがない。

4. 在特会について

（イデオロギー的な評価）まあキャリアが浅いからだね。それこそ高校生時代からそういう本を読んでいるんだから、僕の場合はもう彼ら

とは違うよね。生まれる前から『諸君！』『文芸春秋』読んで。「嫌韓」ってあるでしょ、いったん嫌韓という目で韓国をみたら、あれも気に食わないこれも気に食わないってなるじゃないですか。彼らが日本を見ているのと全く裏返しでみている。お互いに憎みあっている、という状況ですよ。だからその、今まで自分が知らなかった過去30年って、日本がこれだけやつらに踏みにじられてきたんだって思ってるのは確かです。だからまずコリア、チャイナ、(に対して)頭来ているわけです。気持ちはわかるけど、で、そこだけ集中していく。他の事についてはあまり興味ない。

だからパチンコなんか異常に盛り上がっている。今回節電担当大臣が、六百何十業種に対して節電の出してましたよね。それで遊技場だけ入っていないんだよね。何で入ってないのかって答えられないわけです。大臣が。そういうのにつつつくわけです。おかしいじゃないですか。そういうことでパチンコだけを特別に優遇しているわけですよ。平等に扱えよ、パチンコだけやめろっていつているわけじゃなくて、他の業種と一緒にしたらいいじゃないか、なぜ特別扱いするんだって。答えがね、「いや、あの業界が自主的にやっているからいんだ」って。自主的にやっているからいいんだっていったらさ、節電なら他の業種がみなそうじゃない。返事になっていない。そういうところがみんな腹立つんですよ。それで彼らだって、コリアンと今の政治家とパチンコがぐるになってるって。

確かにパチンコ業そのものやめちゃえっていうのは無理な話でさ、僕も指摘したことあるんですよ。あんた憲法違反だって。職業選択の自由って。彼らの論理はあってね、パチンコ業はいくらやってもいい。一兆、二兆、百兆円産業だっていいんだ。換金しなきゃいいんだ。昔みたいにお父さんがチョコレート持って、家(に)持って帰って子ども達を喜ばせる。缶詰たくさん——カニの缶詰なんて滅多に滅多に食わないやつをたくさん持って帰って、奥さん喜ばせる。そういう健康な姿に戻せばいいんだって(在特会は)言う。なるほどなど。それはそれで論理が一貫している。「換金なんでするんだ」って、現金で。

僕も知らなかったんだけど、100%換金してい

るんだってね。私はね、タバコ屋のところで換えてると思ったら大きな間違い。換金するこういうのがあるんだってさ。現金を持たせるのにほんのちょっとだけ換えているんですよ。それをやめて——まあ無理だけどね、警察が利権持っているらしいから。でもちゃんと現物にしなさいよ、と。そうすれば、赤ちゃんを車に置きっぱなしで夢中になることもないです。パチンコで借金まみれになることもない。パチンコで自己破産する人もいないでしょ、家庭を破壊しないでしょ。商品を全部家庭用品にするわけです。洗剤とかさ。旦那さんが会社の帰りにパチンコ行ってさ、洗剤持ってきてくれたら奥さん嬉しいわな。でもこの洗剤実はね、3万円も5万円もかかったと。これはこれで問題が出るけど、やっぱりね、それは論理一貫していると思いますよ。パチンコに関してはね。

若い人っていろいろ千差万別いるからさ。僕の知っている在特会の幹部だってさまざまですよ。天皇のテの字も頭にない人もいるし、これは熱烈天皇主義者もいるし。いろいろだな。一概にはいえない。ただこの業界で長くやっていると、段々やっぱり似てくる。天皇とかさ、大和心とか武士道とか、そういうものに収斂していく。成長していく。そのパチンコから、たとえばアンチコリアから本を読んだり人と付き合ったりして年数を経て、本当の保守主義者になっていく人も多いんじゃないんですか。一概には言えないけど。

僕は保守主義って言葉がね、保守って言葉あんまり好きじゃないけど。行動する保守なんて言っているけどさ、俺やだな、あれ。保守って言葉が好きじゃないね。保守ってだってさ、昔保守党って政党があったんだけど、英語で書くとメンテナンスなんだな。コンサバティブだったらしいんだけど、だったら保守って呼びたくないんだよな。じゃあ何がいかって言われたらね、僕なんか活動している頃は保守主義なんてなかった。昭和40年にはなかった。保守なんてなかった。そういう言葉はなかった。僕ら自分が保守派だなんていわれたなんて知らなかった。保守派？ウソでしょ？覚醒するほうだと思っただけですよ、だから民族派って言ったんですよ、当時は。民族派とか日本主義とか。僕は古いからね、オールドだから。だから保守

派って言葉はなじめないね。昭和40年代の新右翼だな。もうみんな年取っちゃったけど、ニューライト。保守なんて言葉は最近でしょ。

そのときの保守ってのはね、まさに自民党を指しているんですよ。まさに自民党そのものだったんですよ。自民党そのものが嫌なのだったら、保守と言われるのにすげえ抵抗がある。面倒くさいからあまりいわないけどね。日頃は別にいちいち言い返さないんだ。「保守派です」って言われて、「違うよ」と言わないし黙っているけど。言い返さないけども。

（自称するとしたら）王党派だよ、一番しっくりくるのは。フランス革命でいえば王党派だよ。ロイヤリスト。今、王党派と言っても誰もわからないからさ、言わないだけで。面倒くさいから。民主主義に代わるものは何がいいかっていうと、答えはないですね。議会制民主主義しかないんじゃないですか、今のところは。立憲君主制でもいいしさ。1つの国家の理想としては、僕は大日本帝国を持っているわけですよ。明治27、8年以降の大日本帝国ってのが。まあ、僕の知っている限りでは一番いいあれだった。残念だけどね。僕ら残滓しか知らないわけですから。

5. 結語に代えて

β氏は学生運動華やかかなりし時代から、右翼イデオロギーを持ち続けている。そうした民族派の一部が、行動する保守として——β氏自身はこの言葉を好きでないというが——在特会を生み出す基盤となったのを、α氏に続いて確認できる。ただし、民族派ないし新右翼のほとんどは、在特会を初めとする排外主義右翼を批判している。もっとも、民族派も外国人参政権についてはおしなべて反対なので、それをイデオロギー的な「逸脱」ということはできない。だが、ほとんどの民族派が外国人参政権を主たる課題としていないのに対して、β氏がそれを重視するのはなぜか。

第1に、β氏が「つまらない話」というように、強い動機があって取り組んだというよりも、講演会を聞いて危機感を覚えたこと、別の講演会で出会った若者にいざなわれたという「プル要因」が作用している。仮に、β氏がそれ以前に自らの中心的な課題に取り組んでいたら、こ

うしたプル要因によって運動を始めることはなかっただろう。その意味で、β氏が全国を転々として決まった活動をしていなかったという事情は大きな要素となっている。

だが、それだけでなく本人が「コリア好き」というように韓国に対する関心はあった。それが、「本国にいる植民地賛美の韓国人」と「参政権を要求する在日韓国人」という二項対立へと読み替えられ、参政権を問題視することになったとも考えられよう。氏自身が入手したデータにもとづく計算によれば、「簡単に3分の1くらいコントロールできる、区議会議員を」というが、外国人がそれほど強固に組織化されていれば、参政権など持たずとも影響力を行使できる。こうした「常識的な計算」が、参政権論議からなぜ欠落するかは、β氏の聞き取りから明確には伺えない。他の活動家のデータと合わせて解釈する必要があるだろう。

文献

- 別冊宝島, 2010, 『“外国人参政権”で日本がなくなる日』宝島社.
- Earnest, D. C., 2008, *Old Nations, New Voters: Nationalism, Transnationalism, and Democracy in the Era of Global Migration*, Albany: State University of New York Press.
- 樋口直人, 2011a, 「東アジア地政学と外国人参政権——日本版デニズンシップをめぐるアポリア」『社会志林』57(4): 55-75.
- 樋口直人, 2011b, 「外国人参政権をめぐる虚構と真実」『世界思想』38: 42-45.
- 西村幸祐編, 2010, 『撃論ムック 外国人参政権の真実』オークラ出版.
- 桜井誠, 2006, 『嫌韓流実践ハンドブック——反日妄言撃退マニュアル』晋遊舎.
- , 2010, 『日本侵蝕——日本人の「敵」が企む亡国のシナリオ』晋遊舎.
- 山野車輪, 2010, 『外国人参政権は、要らない』晋遊舎.
- （付記）本稿は科学研究費補助金による研究成果であり、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。また、β氏には貴重なお時間を割いて質問に答えていただいた。記して感謝したい。